

ひかりのこ

11月園便り

聖ミカエル幼稚園

2012年10月25日発行

月主題：みつけた みつけた

11月の月主題は「みつけた、みつけた」です。

10月15日には幼稚園で収穫感謝礼拝が行われ、子どもたちは神様に感謝のお祈りを捧げました。また、年中さんはお野菜を持ってご近所を回りました。私も年中さんと一緒に何軒かのお宅を訪問しましたが、ご近所の皆さんのにこにこ顔と、子どもたちの大役を成し遂げた満足げなお顔見ることができ、とても楽しい豊かな気持ちになることができました。子どもたちは季節の移り変わりの中で、たくさんのことを発見し、自分の糧としていきます。これからは冬に向かいますが、きっと毎日何かを発見してまた成長していくことでしょう。

ところで、時々お母さん方から「子育て」について、いろいろな悩みやつづきを聞くことがあります。今回は私の今までの子育てについて、少しお伝えしたいと思います。ただし、私もまだ子育て中の母親ですので、結果が出ているわけではありません。（本当の結果はいつまでも出ないかも。）そこはご了承ください。

一三つ子の魂百まで一

このことわざは「小さいころの性格や、性質は年を取っても変わらない。」というものです。私たち夫婦は子どもが3歳になったころからしつけの中でこの言葉を意識するようになりました。3歳になるころには自我が芽生え、親の言っていることも分かるようになります。このころからが、親の腕の見せ所です。子どもが理不尽なわがままを通そうとしたときは、親もガンとして親の考えを曲げないようにします。真剣な顔で、子どもと目を合わせて、どうしてそれがいけないかを分かるように丁寧にお話をします。何を許して、何を許さないのかは、夫婦で共通しておき、そこはおじいちゃん、おばちゃんにも協力してもらい、絶対に変えないようにします。具体的に私たちが大切にしたのは「人様にご迷惑をかけない。」「周りへのおもいやり」「親への(大人への)言葉遣いや態度」です。やってダメなことと良いことはできるだけ明確にはっきりとさせておきました。あとはお手伝いをたくさんさせました。家族は子どもであっても「共同生活者」です。生活を成り立たせるためには、みんなが力を合わせなければなりません。3歳ぐらいになったら、一緒に台所に立って、その子のできることをやってもらいました。そのころのビデオを見ると、6歳の長男が、ニンジンやジャガイモの皮をピーラーでむいて、2歳の娘がおしめ姿で玉ねぎの皮を上手にむいて、私が包丁で野菜や肉をじゃんじゃん切って、炒めて美味しいカレーライスを作っている場面があ

ります。保育園や学童保育で夕方までをすごした子どもたちにとって、この時間がかけがえない親との触れ合いの時間になります。そしてやっとできたご飯をみんなで食べる時の幸せなこと。大変だったけど、家族にとって、とても貴重な楽しい時間でした。御茶碗洗いは、「お父さん」。誰もが当たり前皆で家事をこなしていました。今では長男も次男も娘も、私よりお料理上手です。息子たちはアイロンがけがとても丁寧で上手です。どこに行っても一人でも生活していけると思っています。「自分で生活できる」力を持っていることは、子どもにとって、とても幸せなことだと思います。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

10月には収穫感謝の礼拝があります。収穫感謝の礼拝は、神様の恵みの中で与えられた豊かな実り一祝福に感謝を捧げる礼拝です。収穫を感謝することを通して学べることは沢山ありますが、その中で一つは、蒔いたものはいずれまた刈り取るようになるという当然の原則です。聖書には収穫一刈り取ることについて多くの教えがあります。例えば、「涙と共に種を蒔く人は、喜びの歌と共に刈り入れる。種の袋を背負い、泣きながら出て行った人は、束ねた穂を背負い、喜びの歌をうたいながら帰ってくる。(詩編126:5,6)」と言うみ言葉がその内の一つです。涙とともに種を蒔くほどの厳しい状況の中でも、種を蒔くならばいずれは必ずその結果を得ます。種を蒔くその状況が厳しければ厳しいほど、その収穫を得るときの喜びはさらに増していくものでしょう。そうです。「人は、自分の蒔いたものを、また刈り取ることになる。(ガラテヤ書7:7)」と言う聖書のみ言葉は、真理です。

何もかもさらに厳しくなってくるという話をよく耳にする今日、それにも関わらず明日への種を蒔いている一人ひとりをイエス様のお名前によって祝福したいとおもいます。きっと、ミカエル幼稚園に連なる皆さんの中でもだれにも言えない厳しい状況の中でも、諦めず涙と共に明日への種を蒔いている方がいるでしょう。収穫感謝の礼拝のある今月、いずれは必ずその収穫を得る、そしてその時の喜びは今の何倍にもなるという当然の原則をもう一度、覚えておきたいと思えます。

チャプレン ジョシュア 司祭 李 香男